

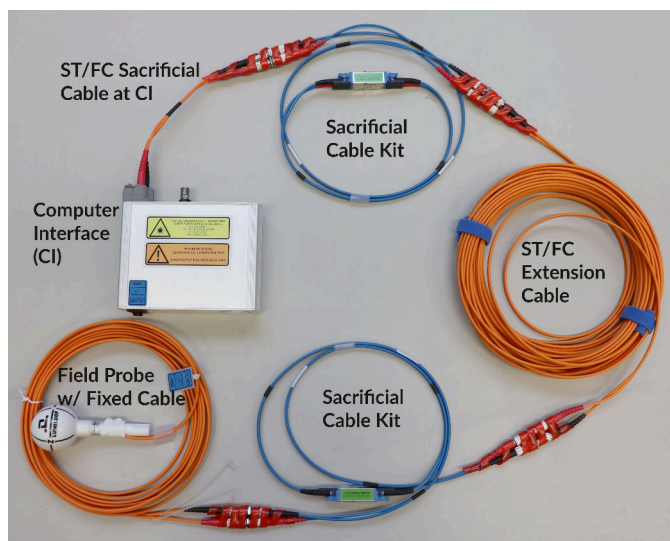
LS プローブ クイックスタートガイド

LUMILOOP GmbH

2024 年 3 月 27 日

本書の最新版及び取扱説明書は、メーカーホームページ www.lumiloop.de で参照できます。

1 システムの概要



LS プローブ システムは写真の様に、光ファイバーを通じて給電される「フィールドプローブ」と「PC インターフェース」で構成されています。PC インターフェースは USB2.0 を介してホストコンピューターに接続されます。

「LS プローブ TCP サーバー」はすべての USB コミュニケーションを処理するものです。LUMILOOP 専用 GUI アプリケーションと他社製の EMC ソフトウェアからは、SCPI コマンドを使って TCP/IP コネクション経由で通信が行われます。

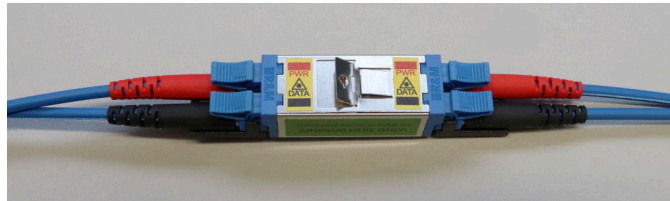
2 ソフトウェアのインストール

1. USB ドライブ上から、インストーラ「LUMILOOP_Installer.exe」を走らせインストーラの指示に従って進めます。
2. プローブ校正データを適切なフォルダにコピーします。(ディレクトリの例：
C:\ProgramFiles(x86)\LUMILOOP\cal\lsprobe フィールドプローブのシリアルナンバーが 42 であれば、インストールメディアからディレクトリに sn42 / 2v0sn42 と名付けられ

たすべてのディレクトリを cal\lsprobe ディレクトリへコピーしてください。)

3 光ファイバーの接続

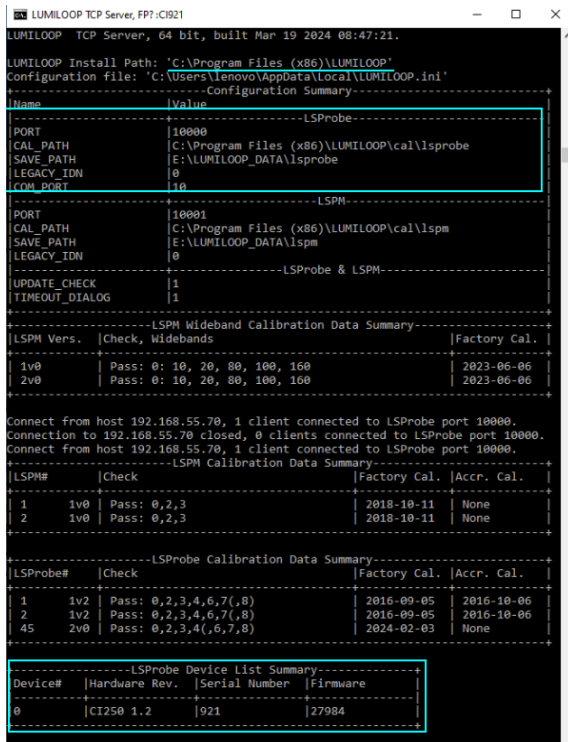
注意：すべての LS プローブ は、専用の光ケーブルが添付されており、使用の際にはその接続が必須です。



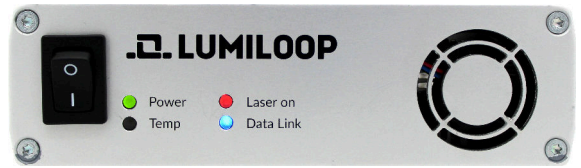
交換用スペア光ケーブルが各 LS プローブシステムに付加されています。光接続時、取り外し時には、常時 E2000 型コネクタを使います。交換用スペア光ケーブルの E2000 コネクタは、汚染防止とそれに起因する光ファイバーの焼損を防止する自動シャッターを備えています。とは言え、すべての光コネクタ接続部は、常時完全にクリーンな状態を保っておく必要があります。尚、光ケーブル焼損の際には、ユーザー自身が 2 組 交換用スペア光ケーブルのみを交換するだけで良く、低コストでスピーディな復旧が可能です。詳細は、LSProbe 取扱説明書の 5.1.1 項を参照してください。

4 システムスタートアップ

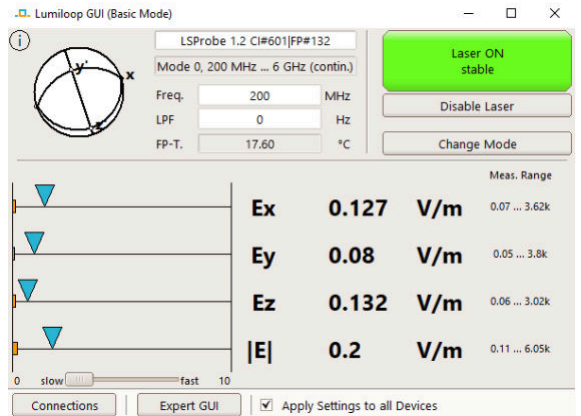
1. 同梱の AC 電源アダプターをコンピュータインターフェースに接続します。
2. コンピュータインターフェースとホストコンピューターを同梱の USB ケーブルで接続します。
3. コンピュータインターフェース前面の電源スイッチを ON にし、緑色の Power LED が点滅することを確認してください。この時に接続されたホストコンピューターが Microsoft の Windows アップデートにオンライン状態であれば、USB ドライバが自動的にインストールされます。
4. Windows スタートメニュー経由で LSProbe_1.2 のアプリから、LSProbe_TCP_Server を起動し、緑の Power LED が点灯状態になったかどうか確認します。上写真のように LSProbe TCP サーバーが、検出されたプローブ校正データセットのリストと、接続されている PC インターフェースのリストを表示します。もしこの手順がうまくいかなかった場合は、LSProbe 取扱説明書の 4 項を参照願います。



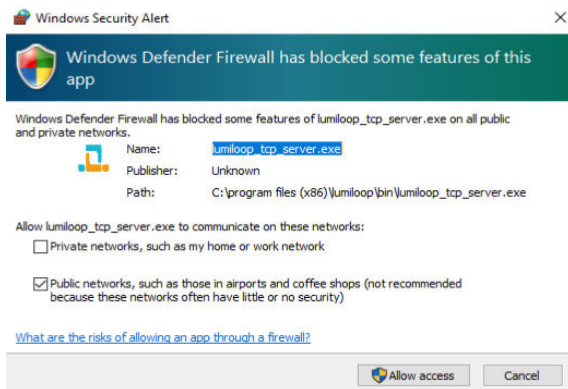
上図のように緑の‘Laser Status’インジケータが表示することでGUIが適切に動作していることがわかります。また、下図のようにPCインターフェースの前面パネル表示が‘Power’, ‘Laser on’, ‘Data Link’LEDが常に点くことで安定したオペレーションが行われています。



- 下図のように電界強度がXYZコンポーネントの値、及び等方性の電界強度がGUI上で表示されます。また、設定されたモードと周波数におけるキャリブレーション補正込みの最大値、最小値が下に表示されます。



- LSProbe TCP サーバーはTCPポートを開く必要があるためシステムのファイアウォールはネットワークアクセスへの承認を要求する可能性があります。ポート番号の初期値は10,000です。



- 正確な電界強度の強さを測定するために、測定される電界強度の周波数は‘Freq./Hz’へ特定されなければなりません。周波数はヘルツ単位で例えば1GHzであれば、‘1G’のように入力してください。
- 高度な機能については、‘Expert GUI’ラジオボタンを使用してください。

メモ欄:

5 LUMILOOP GUI (グラフィカルユーザーインターフェース) の操作

- Windows スタートメニュー経由で LUMILOOP GUI を起動します。
- レーザーパワーサプライを有効にするため ‘Enable Laser’ ボタンをクリックし、フィールドプローブをオンにする。PCインターフェースの ‘Laser on’ LED 表示がパワーサプライの状態を表します。

注意: オレンジのLEDが点滅した場合は、自動パワー制御機能 (APR) が動作しないことを示し、光接続部に異常がある可能性があります。






warranty lumiloop.de/support/register

LUMILOOP デバイスを登録すると無償で1年延長保証が受けられます。現在保証対象となっているすべての機器に適用されます。